

インドの勢力範囲

特許技監 櫻井 孝

自分がインドに赴任したのは1990年の4月だが、それから4ヵ月も経たない8月2日、イラクが突如隣国クウェートに侵攻した。翌年1月には国連が多国籍軍の派遣を決定し、いわゆる湾岸戦争にまで発展する。このイラクのクウェート侵攻から湾岸戦争にかけて、インドは大変な状況に追い込まれた。外貨準備高が激減して、債務不履行を心配する声が聞かれるまでになってしまったのだ。戦争当事国でも隣国でもないインドがなぜそんなことになってしまったのか。これには深いわけがある。

大きな要因としては2つほど挙げることができると思う。まずは被居住インド人からの外貨の仕送りが途絶えたことだ。「被居住インド人」とはインドでNRI (Non Resident of India) と呼ばれている人達のことであるが、要は外国に出稼ぎに出ているインド人のことである。外国に働きに出ているインド人からは、外貨でインド国内の家族に仕送りがなされる。インド政府はそのような外貨での仕送りを奨励していたこともあり、それが結果としてインドの外貨準備を下から支えていたのである。このNRI、特に湾岸地域には相当数がいた。それがイラクのクウェート侵攻でとても仕事ができる状況ではなくなり、それでNRIからの外貨の仕送りが途絶えてしまったのである。

もうひとつは石油だ。インドはアッサム地方やムンバイ沖に油田を持っており、かつては石油を輸出していた時代もあった。しかし、生産性の低さと多発する労働争議、その一方で国内の石油製品需要の高まりなどから、石油輸入国に転ずる。1990年の頃はかなりの輸入量となっていた。その石油であるが、それは当時ソ連との間で行っていた三角貿易によって、外貨を使わずに得ていた。仕組みはこうだ。まずインドが自国の軽工業品をソ連に輸出する。ソ連はその代金を支払う代わりに、湾岸地域で石油を調達し、インドに直接送り届ける。これによって債務を帳消しにするというわけだ。ところが、湾岸地域の紛争によって石油が回ってこなくなり、このシステムが壊れてしまう。インドは自国の石油需要をまかなうために貴重な外貨を使ってスポット市場から石油を調達せざるを得なくなった。

このように、外貨フローに関して、流入量が減り、逆に流出量は増えたのだから、外貨準備高があつという間

に減ってしまったのである。

この危機を乗り切るため、わが国も緊急援助をしたり、インド政府が経済改革に乗り出すなどいろんな出来事があったのだが、それはここではひとまず置いておいて、これに見られるようにインドと中東とのつながりはけっこう深い。中東どころか、アフリカの東海岸辺りまで、随分ひろい地域にインド人は進出している。その理由として、かつてインドが英領だったころ、英国人がそれらの地域に進出する際に、インド人を連れて行ったことがあるように思われる。

郵便事業で見てみても、中東からアフリカ東海岸辺りで広くインドの郵便切手が使われた時代があった。郵便切手というシステムは英国人が発明したものだが、そのせいかどうか、英国人が進出する先には必ず郵便局を作ったようだ。それらの郵便局は、インドのボンベイ（現ムンバイ）にあった中央郵便局の管理下にあった。そこで扱う郵便切手は、当然のようにインドのものが使われたのである。

そのうち、それらの地域でもそれぞれに独自の郵便システムができあがり、その国の郵便切手が発行されるようになるのだが、そうなったとき直ちには新しい郵便切手の印刷が間に合わない場合がある。そういうときには、それまで使っていたインドの郵便切手の上にその国名などを加刷 (overprint) して、間に合わせ的に使用した。

このインドの郵便切手をベースとした加刷切手の例をここに紹介する。これらはすべて上述したような理由ばかりではなく、例えばマスカットのものは、Al Busaid王朝の200周年を記念して王朝名を加刷したものである。あるいは、クウェートやバーレーンのように、長い期間にわたって加刷切手を使ったところもあった。いずれにしても、これだけ広い地域でインド由来の郵便切手が使用されていたのだ。

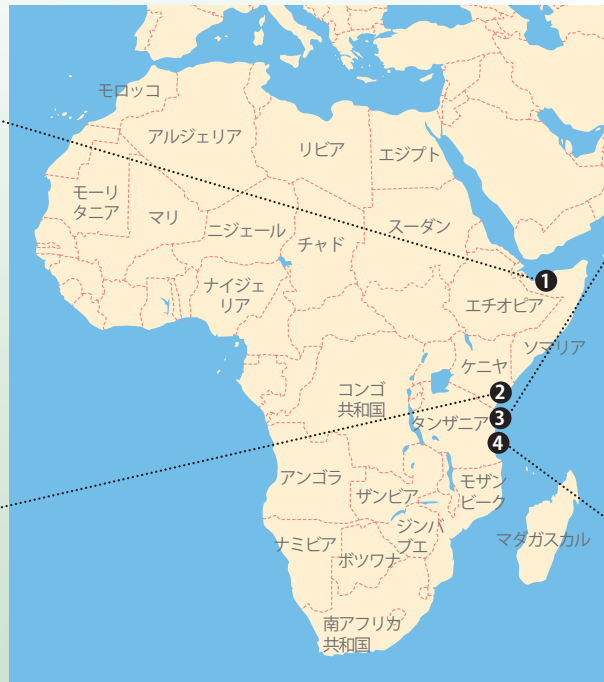
国別に郵便切手を集めようとする、その国の一番最初の切手はこのようなインド切手に加刷したものというのも、少し寂しい気がするかも知れない。しかし、自分のようにインドにまつわる切手をとにかく集めてみようと思う者にとっては、インドってやっぱり偉大なんだなあ、と思わずうなってしまうのである。



①英領ソマリランド
(使用期間：1903年)
(ビクトリア女王：SG#11)



③ザンジバル
(使用期間：1895～98年)
(ビクトリア女王：SG#21)



②英領東アフリカ
(使用期間：1895年)
(ビクトリア女王：SG#62)



④タンガニーカ (マフィア島)
(使用期間：1915～16年)
(ジョージV世：SG#M45)



⑤クウェート
(使用期間：1923～48年)
(ジョージV世：SG#28)



⑥バーレーン
(使用期間：1933～48年)
(ジョージV世：SG#14)



⑦マスカット
(使用期間：1944～48年)
(ジョージVI世：SG#14)